

一般社団法人日本呼吸療法医学会
2020 年度（第 43 期）第 1 回理事会 議事録

日 時：2020 年 11 月 5 日（木）14：00～15：00

場 所：WEB 会議形式での開催

出席者：藤野裕士（理事長）、今中秀光、竹田晋浩、陳 和夫、
西田 修、大塚将秀、近藤康博、
内田寛治、神津 玲、茂呂悦子、山本信章（各理事）
川前金幸、橋本 悟（監事）

欠席者：尾崎孝平、志馬伸朗、讃井将満（理事） [敬称略]

陪 席：小笠原聡、山崎由華（事務局）

【開 会】（藤野理事長）

- ・理事会開催に必要な理事の過半数の出席があることが報告され開会が宣言された。

I. 報告事項

1. 前回理事会・総会議事録の確認・承認（藤野理事長）

- ・前回議事録は、原案通り承認された。

2. 持ち回り理事会（審議 8 件、連絡 10 件）決定事項の承認（藤野理事長）

- ・審議 8 件の決定事項をすべて承認し、連絡事項 10 件を確認した。

新型コロナウイルス関連対応の理事長報告（藤野理事長）

- ・新型コロナウイルス関連の内部対応 2 件、質問 6 件、取材 1 件、引用転載 4 件について、理事長から報告があった。

3. 事務局からの報告（大塚理事）

- ・会員動向について、全体としては微減傾向であるが医師の入会は増加傾向にあり、一方看護師・臨床工学技士は減少傾向、理学療法士は現状維持の傾向にあることが報告された。
- ・藤野理事長、竹田理事の紹介により、ECMO 関連企業のマシモジャパン社とゲティンゲ社から賛助会員としての入会があった。
- ・会費納入状況は、2020 年度は 8 割に達し、例年どおり年度末までに 2 度ほど未納連絡を行い、納入率向上に努めることとした。

4. 学術集会報告・準備状況

1) 第 42 回学術集会準備状況（志馬会長）

- ・2020 年 12 月 20 日（日）・21 日（月）に国立京都国際会館で、予定どおり現地開催＋後日オンデマンド配信方式で開催する。
- ・現地開催に際して、会場施設のガイドラインに準拠した感染拡大防止対策を作成・公

開し、3密を回避して運営する旨を明示していることが報告された。

- ・呼吸療法専門医、救急科専門医、専門医共通（倫理、感染）の認定プログラムを設け、COVID-19 関連プログラムについても増設した。初日夕方には優秀演題の表彰を行う。企業共催プログラム（ランチョン）では飲食物の提供を行うこととした。

2) 第 43 回学術集会準備状況（大塚副会長）

- ・2021 年 7 月 3 日（土）・4 日（日）にパシフィコ横浜で開催する。現地開催+WEB 配信での開催を予定しており、ライブ配信か後日オンデマンド配信かについては検討中であることが報告された。
- ・プログラム作成に際して、海外からの講師招聘については原則行わないこととした。教育講演・シンポジウム・一般演題発表を軸としたシンプルなプログラム構成を基本とし、懇親会については現時点では開催しない予定である。

3) 第 44 回学術集会準備状況（讃井副会長）

- ・2022 年 8 月 6 日（土）・7 日（日）にパシフィコ横浜での開催が内定している。

4) 第 45 回学術集会準備状況（近藤副会長）

- ・2023 年 8 月 5 日（土）・6 日（日）を会期とし、名古屋コンベンションホールを仮予約済であることが報告された。会場候補として、2021 年 8 月 1 日からウインクあいちの申込受付が開始するため、通ればそちらでの開催を優先する。

5. 各委員会報告

1) RST プロジェクト認定施設の HP 公開報告（藤野理事長）

(http://square.umin.ac.jp/jrcm/contents/rst/sanka_list.html)

- ・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会と合同で運営している RST プロジェクトにおいて、登録促進を目的として両学会ホームページに認定施設一覧を公開することとなった。認定施設数は 2020 年 10 月時点で 28 施設である。

6. その他

1) 次回理事会日時；2021 年 2 月 4 日（木）14～16 時（WEB）

- ・第 3 回は 5 月 13 日（木）、第 4 回は 7 月 2 日（金）開催であることを確認した。

II. 審議事項

1. 役員・委員会名簿確認、担当理事検討（藤野理事長）

- ・2020 年定時社員総会で報告した役員・委員会体制を確認し、未定となっていた安全対策・危機管理委員会の担当理事を、内田理事に担当いただくこととした。

2. 抄録アプリについて（藤野理事長）

- ・以前の理事会で（19/6/27）、抄録アプリの制作会社は JCS 社とすることが決定し、2 つのプラン「PREMIUM 版」「LITE 版」それぞれの機能・特徴・価格などが提示さ

れ、本会用の見積もりをもとに採否を検討した。

- ・ PREMIUM 版は多機能装備に加え、過去の抄録データを蓄積できる「本棚」機能があり、抄録の記録媒体を紙からアプリに集約する方針であれば、経費はかかるがこちらを採用したほうがよいとの意見があがった。日本集中治療医学会では、第 47 回日本集中治療医学会学術集会から PREMIUM 版を採用している（経費は 1 年目：130 万円、2～4 年目：各 40 万円）。ただ、iOS/andoroid がバージョンアップを行った場合、PREMIUM 版の機能を維持するには JCS のアプリも対応させていく必要がある、その費用も追加コストとして考慮する必要がある。
- ・ 仮に PREMIUM 版を採用する場合、連結決算ではあるが、1 年目の導入にかかる費用は本体会計から負担する形をとることを確認した。
- ・ LITE 版には本棚機能がないためデータの蓄積はなく、制作費は 2 年目以降も変わらないが、本会の演題発表数規模であればこちらで十分との意見もあった。
- ・ アプリの使用に際し、会場の WEB 環境に左右される恐れがあるが、PREMIUM 版は予めダウンロードしておけばオフラインでも使用が可能である。
- ・ 第 42 回は参加者数の見通しが立たず、今回の抄録アプリ採用は見送る、という選択肢も提示された。
- ・ JSC 社への回答期限が迫っており、審議の結果、今回の第 42 回については「LITE 版の採用」「採用しない」のいずれかを、会長に一任することとした。

3. 各委員会からの審議事項

1) 専門医委員会（藤野理事長）

①書類審査結果

- ・ 10/23 に委員会で認定した、更新 27 名、施設不在県からの申請 1 名、新規書類通過 20 名について、本理事会で承認された。

②申請書類の保管期限

- ・ 2010 年に専門医制度が始まって以降、申請書類の保管期限は定められておらず、保管場所にも限度があり、今後は基本的に申請書類の保管は PDF で行うこととした。

③新規申請の電子化

- ・ 次年度より、専門医・研修施設いずれも新規申請を電子化し、WEB 上の入力または WORD への記入データを受け付ける案についても承認した。なお、指導医・病院長の署名・押印用紙や、各種認定証や抄録・論文などの必要資料などはスキャン PDF の添付提出とし、原本は本人保管とした。

④専門医更新時の学術集会参加証明書紛失救済措置

- ・ 以下の専門医規則施行細則改定案が承認された。

第15条 専門医の認定更新をする者は、専門医認定更新電子申請を行い、次に定める申請書類を専門医委員会に提出しなければならない。

(1) 年次学術集会出席証明書のコピー

(紛失等による提出不可の場合、申請を保留とし、翌年の学術集会で演題発表を行えば、次年度の申請期間に再申請を行うことができるものとする)

⑤審査料、登録料の料金変更

- ・専門医の審査料は課税対象であり、現状では学会が課税分を負担する形になっているため、審査料・登録料の価格を税込額とする提案があった。審議の結果、以下の専門医規則施行細則改定案が承認された。

第19条 認定申請には次の審査料が必要である（税別）。

- (1) 専門医認定に関する審査料 10,000円
- (2) 専門医認定の更新に関する審査料 10,000円
- (3) 専門医研修施設認定に関する審査料 20,000円
- (4) 専門医研修施設認定の更新に関する審査料 20,000円

第20条 専門医として認定された者、また、専門医研修施設として認定された施設は次の登録料が必要である（税別）。

- (1) 専門医の登録料 10,000円
- (2) 専門医研修施設の登録料 20,000円

2) 編集委員会（今中理事）

①論文 PDF からの患者様情報の流出

- ・去る 10 月 20 日、著者からの指摘により、本学会ホームページに掲載している機関誌「人工呼吸」内の患者様写真から、目隠し（マスク加工）が外れた状態の画像が Google の画像検索で表示されることが判明した。直ちに公開中の全論文を調査し、同様の事象を認めた別の 1 編とあわせて当該両論文をいったん非公開とし、記事中の PDF の修正・差替え、Google 社への削除依頼により、Google 検索で表示されなくなったことを確認した。著者にも謝罪を行い、ご了承を得た。
- ・論文 PDF の制作工程は、患者様写真（Photoshop データ）に Illustrator で作成したマスク加工を重ねるという手法をとっていた。Google の画像検索機能では後から重ねたマスク加工が除去されてしまう仕組みであったため、Illustrator を使わず、Photoshop 内でマスク加工処理を施して PDF を作成する工程に変更したところ、マスクが分離することはなくなった。今後の論文 PDF 制作について、上記の新規手順で進めるよう作業工程を改善したことが報告された。

②論文 PDF の仕様

- ・本年度から学会誌が電子化されたが、PDF の制作工程 1 つの違いで想定外のトラブルが生じたことを受け、現行の論文 PDF 仕様の是非について、「安全性」「利便性」の 2 つの面から委員会で審議した。その結果、技術的な対策で再発防止の目途がたったことから、論文の利活用や閲覧については一層促進する必要がある、検索・印刷機能などの PDF 仕様は現状のままでよいとする意見があがった。
- ・会員のメリットを重視する方針についてもこれまで理事会で議論されてきたこともあり、委員会審議のとおり、従来の仕様を継続することとした。

③DOI 取得

- ・閲覧・引用を促進する方策として、DOI（Digital Object Identifier、WEB 上の電子化コンテンツに付与される国際的識別子）を取得する案が委員会からあがった。近年、

DOI が付与された論文が多く、本誌にはメリットも大きく、科研費の申請では研究成果の報告の際に論文の DOI を求められる状況でもあることから、DOI を取得する方針について本理事会で承認された。

- ・ 日本唯一の DOI 登録機関である Japan Link Center (JaLC) にて取得方法を調査し、経費がかからない方法で申請を進めていくこととした。

3) 社会保険委員会；2022 年度診療報酬改定要望 （陳 委員長）

- ・ 2022 年度診療報酬改定要望について、以下 2 件の要望申請が報告された。
 - ①在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料
 - ②経皮的血液ガス分圧測定、血液ガス連続測定
- ・ 本会が内保連内で加入している呼吸器関連部会において、上記 2 件の報告を行い、しかるべき学会から改定要望申請が出されるよう審議をお願いすることとした。
- ・ 2018 年度より内保連に入会しており、引き続き学会・会員に寄与すべく活動を行っていくことを確認した。